

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			1176502100		
法人名			ALSOK介護株式会社		
事業所名			グループホームみんなの家・大宮三橋		
所在地			埼玉県さいたま市大宮区三橋2-795		
自己評価作成日		令和6年11月29日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和6年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状も比較的安定されているご利用者様が多い為、外の空気を感じられるよう定期的な散歩や買い物の機会を提供しています。気候の安定している日には近くのファミリーレストランに外食に出掛ける事もあり、ご利用者様はもちろんご家族様にも大変喜んで頂いております。普段の生活の中でも、ご利用者様に「役割」を担って頂く事で積極性が生まれ、充実した生活を送れるよう努めております。

また、普段の生活の様子をご家族様に知って頂く為に毎月近況報告や日頃のレクリエーションやイベントの写真付きお手紙を送付しています。遠方のご家族様でも普段の様子がいつでもわかるようにブログの更新にも力を入れており、ブログを見てご見学に来られる方もいたり和新規入居にも繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR「大宮」駅から西武バス「大宮駅西口」乗車5分、「中並木」バス停下車徒歩4分の場所に位置し、周囲は住宅や商店、ファミリーレストランなどに囲まれている。1階にはアルソック本部があり、2階から4階が3ユニットのグループホームとなっている。中庭を挟んで本社が併設されており、防災訓練は本社と合同で実施している。定期的な散歩や買い物、近隣のレストランへの外食など、外出の機会を作り、ご入居者に喜ばれている。管理者は毎月の近況報告やレクリエーション、イベントなど、写真付きの手紙で様子を伝えており、ブログの更新にも力を入れている。ブログを見て見学に来た方もいる。本社によるアルソック体操や職員向けの研修も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の施設である事を踏まえ、ご家族様や近隣住民の皆様、地域包括支援センター様と連携を図っている。また、地域の高齢者介護の拠点として信頼されるよう努めると共に、理念を職員会議等で全スタッフが確認し、実践に繋げている。	理念は各階のエレベーターホールに掲示されている。職員会議では職員に理念について答えてもらい、常に意識してもらうようにしている。会議で理念を共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の催しには地域のボランティアに来て頂いたり、ご家族様やご友人にも気軽に参加して頂けるよう取り組んでいる。散歩がてら近くのドラッグストアやコンビニまで出掛けたり、ファミリーレストランに外食に出掛ける事もある。	自治会に入会し、アニマルセラピーを行う際には回覧に載せてもらった。天気の良い日には近隣への散歩に出かけ、近くのドラッグストアやコンビニ、ファミリーレストランに外食に出かけることもある。毎朝、職員は近隣の清掃を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症についてや施設についての質問等があった場合は、質問にお答えしたり資料をお渡ししたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の状況について報告すると共に、今後の運営に関しての要望やアドバイスを頂いている。市役所担当者様に介護保険について質問し、ご家族様や職員に周知している。	運営推進会議には大宮区の担当者、自治会長、包括支援センターの担当者、ご家族2～3名が参加している。ご家族は区役所の担当者に介護保険について質問し、区の担当者はホームの事故報告について質問することで、お互いの理解を深めている。会議での意見はサービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの担当者様や市役所担当者様が出席して下さり、情報共有出来ている。	管理者は空床報告や相談などで担当者とやり取りしている。運営推進会議の案内を持って出向くこともあり、包括支援センターにも持参し、ホームのパンフレットなども一緒に持参している。ケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束廃止委員会、年に2回研修を実施している。テーマは本部より送られてくる為、全職員が順番に司会進行や議事録作成までを行なう事で、全職員が身体拘束をしないケアについての理解を深めている。	年4回の身体拘束廃止委員会を開催し、年2回アルソック本社の研修を行っている。進行係や議事録作成担当者は職員に担当してもらい、職員は緊張感を持って研修を受けている。施錠は安全上、各フロアの入り口のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回の虐待防止委員会、年に2回研修を実施している。事業所内での虐待の芽になる様な案件について話し合い、虐待防止や職員同士注意しあえる環境作りに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアリーダー等は、成年後見人制度について説明出来る知識を有している。現在は成年後見人制度を活用しているご利用者様はいないが、必要に応じてご家族様に説明出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に先立ち、必ず管理者が重要事項について説明して、ご家族様にサインを頂くようにしている。又、その際に不安や疑問に思っている事等を確認し、説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には定期的にお電話やひとこと通信にて状況報告をさせて頂き、その際に要望や質問等を伺うように努めている。又、本社から年に1度ご家族様宛にアンケート調査を実施し、その内容が介護現場にフィードバックされ、業務改善に反映させている。	ご家族の意見は面会時や電話、定期的に送るひとこと通信で要望や質問を伺っている。また、本社が行う年1回のアンケート結果がホームにフィードバックされ、それらの意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にヒヤリングを設けたり、職員会議・フロア会議等にて意見や提案を聞く機会を設けている。また、いつでも職員が意見を言えるような雰囲気作りに努めている。	管理者は職員会議やフロア会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。個別面接は2～3月と8月～9月頃の年2回行っている。職員がいつでも意見を言える雰囲気作りに努め、出された意見や提案は検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の資格取得の為の研修や報奨金制度の導入等で、スキルアップに報いる方途としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催にて、職階別或いは経験年数別の研修が実施されている。又、自己啓発研修にも自由に参加出来るようになっている。事業所内でも勉強会を設け、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護職実践者研修を初めとして、外部研修の費用を会社負担とする等、資質向上の為の機会を作っている。又、グループホーム協議会に加盟し、同業者と交流が持てる機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居にあたり、管理者や計画作成担当者が必ずご本人様と面談し、ご意向の確認を行ない、サービス開始時の暫定ケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居にあたっては、管理者のみならず、担当フロアの責任者がご本人様やご家族様と出来るだけお話させて頂く機会を作り、スムーズな新生活が送れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時・ご入居後の状況等を細かく把握する事で、ご本人様・ご家族様にとって、どのようなサービスが適切であるか等を考え、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点からも、日常生活上の家事等は、ご本人様の負担にならない範囲で、一緒に行なうようにしている。事業所内の設え等もご利用者様と一緒に取り組むように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する近況報告やお電話にて近況を報告させて頂き、誕生会などイベントの写真付きのお手紙も近況報告とは別で作成し送付している。ブログ等でいつでも普段のご様子が閲覧できるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのご友人等が面会に来られたり、ご家族様やご親戚の方と一緒に馴染みの場所へ外出する等、良い思い出を大切にし関係性が途切れないよう支援している。	友人が面会に来たり、ご家族とお墓参りや外食を行ったり、ご家族が親戚と一緒に馴染みの場所に外出するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での座席の配置に気を配り、介護職員が間に入り会話をリードする等して、ご利用者様同士の会話が弾むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も季節のご挨拶や定期的なご連絡を絶やさないう努めている。退居後も、ご家族様から近況報告のご連絡を頂く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での行動や会話からご利用者様の想いを汲み取り、ご利用者様々々にとって何が良いのか考え、出来る限り要望に対応出来るよう、スタッフ間で共有しながら日々のケアに取り組んでいる。	日常生活の中で職員は行動や表情からご入居者の思いや意向を汲み取るようにしている。細かな表情の変化を捉え、ご要望に対応できるようにスタッフ間で情報を共有しながらケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居実態調査時やケアプラン作成時等を通して、ご本人様やご家族様から生活歴等の情報を出来るだけ収集し、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、バイタル表等、各種の記録を詳細にとる中で、常に変化のご利用者様の様子の把握に努め、必要に応じて医療関係者と連絡を取る等して、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎のケアプラン更新時には、必ずご本人様・ご家族様のご意向をお伺いし、カンファレンスを開いて、より良いサービスの提供を心掛けている。	6か月ごとのプラン更新時には、ご本人とご家族の意向を伺っている。毎月のフロア会議でモニタリングを行い、職員とサービス会議を開催して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノート等を活用し、担当スタッフ間で情報や問題意識の共有を図り、フロア会議やカンファレンスの際に深い議論が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、外部サービスを取り入れる等、その時々のご本人様・ご家族様のニーズに柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月届く自治会の会報にて、地域行事の情報等を把握し、豊かな生活環境作りの一端としている。事業所の催しのお知らせを自治会回覧板に入れて頂く等、地域との関わりを深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医・医療連携看護師・薬剤師とは密に連携を取り、ご利用者様の身体状況や薬について等、積極的に質問し相談している。生活記録を細かく記入する事で、往診時等に普段の様子を伝えている。	協力医療機関と歯科の往診は月2回行われ、歯科衛生士と医療連携の看護師が毎週訪問している。現在、かかりつけ医への受診者はいない。職員はご入居者の身体状況や薬について積極的に質問したり、相談を行っている。生活記録を細かく記入し、往診時にその様子を伝えている。また、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診以外にも、発熱や痛みの訴え等軽微な症状でも密に連絡を取り、指示を仰いだ上での対応に努めている。必要に応じて、臨時個別往診等の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、こまめに連絡を取り情報交換に努めている。又、退院時に於いても状況把握とその後のサービスの在り方について、医療機関や訪問看護等と情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の際の説明を行ない、医療行為が必要になった際の対応について予めご家族様と話し合いを重ねている。ご家族様とこまめに連絡を取り合い状況報告に努め、ご家族様の希望をできるだけ受け入れ早期の対応を心掛けている。	「重度化した場合の対応に係る指針」については契約時に説明している。経過の中で重度化が進んだ場合には、医師がその都度ご家族に説明を行い、職員も立ち会いのもとで同意書を頂いている。ご家族の希望をできるだけ受け入れながら、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、全職員が把握出来るよう職員会議等で常に確認を行ない、慌てずに実践出来るよう努めている。ホーム長が応急手当普及員の資格を有しており、事業所内で普通救命講習などを受ける事が出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた年2回の消防訓練を実施する際は、地域の消防署の指導を頂き、緊急時・災害時の対応力を身に付けるようにしている。本社との合同訓練を行ない、本社との連携にも力を入れている。	年2回の防災訓練を実施しており、9月と12月に行っている。12月は本社と合同で実施する予定。消防署の指導を受けながら、夜間想定訓練や地震対応訓練、消火器の使い方、避難誘導、通報の訓練などを行い、職員は方法を身に付けている。本社との連携にも力を入れており、備蓄は5日分している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にご利用者様一人ひとりの人格や個性を尊重し、プライバシーに配慮した言葉がけや対応を心掛けている。居室小窓にイラストを貼る等し、居室内が丸見えにならないよう配慮している。	日頃からご入居者一人ひとりの人格や個性を尊重し、プライバシーに配慮した言葉遣いを心掛けている。居室の小窓にイラストを貼るなどして、居室内が丸見えにならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様の自己決定を促すような言葉掛けを心掛けている。過去の生活歴やご家族様からの情報を基に、ご本人様の隠れたニーズまで掘り起こし、より心豊かな毎日を送って頂けるようサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活サイクル・ペース・嗜好等を大切にし、レクリエーションやお手伝い等においてもご自身の意思を尊重するようにしている。起床時間や就寝時間についても幅を持たせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の了承を頂いた上で、ご本人様と近くの衣料品店で洋服を買う等、ご本人様好みのおしゃれが出来るよう支援している。又、パーマやカラーリング、化粧等も自由に楽しんで頂けるような体制を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事に関してはチルド食を採用し、職員が準備をしている為、主に下膳や片付け等を一緒にこなして頂いている。又、季節の食材を取り入れたおやつ作り等を企画・開催し、ご利用者様に役割を担って頂く事で作る楽しさや達成感など感じて頂けるよう努めている。	チルド食を採用し、下膳や後片付けはできる方に手伝ってもらっている。また、季節の食材を取り入れたおやつ作りを企画し、職員が買い物に行き、希望の食材を取り入れておやつ作りを楽しんでいる。ご利用者には役割を担ってもらい、楽しさや達成感を感じてもらえるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた食事形態を細かく配慮している。ご本人様のお好きな飲み物を購入したり、食事が進まないご利用者様には無理なくおやつレクリエーションなどで楽しく栄養を摂って頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず全員の口腔ケアを実施し、訪問診療の歯科医師や歯科衛生士からの口腔内の健康維持についてのアドバイスを心得て実行している。又、毎週月曜日に義歯洗浄を行ない、清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用する事で、各々の排泄パターンの把握に努め、プライバシーに配慮しこまめなトイレ誘導や声掛けをする事で、出来る限りトイレで排泄が出来る様支援している。	排泄表を活用し、こまめなトイレ誘導を支援している。一人で行ける方や声掛けで行ける方、リハビリパンツを使用している方、昼間リハビリパンツを使用している方など、それぞれの状態に応じて、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	弊社独自の健康増進プログラムの体操を積極的に取り入れたり、オリゴ糖等を使用する事でスムーズな排泄を心掛け、必要に応じて医師の指示の下、服薬によるコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂がお好きな方、熱めなお湯がお好きな方等、様々なご希望に添えるよう努めている。浴槽を跨ぐのが難しい方にはリフト浴で安全に入浴して頂いている。自尊心が強く介助される事に抵抗があるご利用者様の対応では、ご自身で出来る事はやって頂き、出来ない事はさりげなくサポートしている。	週2～3回の午後の入浴支援を行っている。ご入居者の好みに合わせて、1番風呂が好きな方や熱めのお湯を好む方など、できる限り希望に対応している。身体の状態に応じて、リフト浴を使用し、安全な入浴にも努めている。また、自尊心が強く介助に抵抗のある方には、自分でできることはやっていただき、できないことについてはさりげなくサポートしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方や夜比較的に遅くまで起きておられる方等、お一人お一人のリズムを大切に、起床・就寝の時間は幅を持たせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬表や服薬管理表・申し送りノート等を用い、薬について職員全員が把握するようにしている。また、下剤の効能についての理解を深める為の勉強会を行なう等、薬に関する知識を職員間で共有する取り組みを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はなるべくご自身でやって頂く事で、ご本人様が役割や楽しみ・達成感等を見出す事が出来るよう支援している。又、日常の会話等からもご本人様の思いを汲み取れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のドラッグストアや衣類量販店へ買い物に出掛けたり、事業所玄関前でおやつを食べながら外気浴をしたり外の空気に触れられるよう支援している。また、ご家族様の了承の下、近隣のファミリーレストランへ外出に出掛ける事もある。	ホームでは近隣のドラッグストアや衣類量販店に出かけたり、事業所の玄関前でおやつを食べながら外気浴をしたりして、戸外に出かけられるよう支援している。ご家族の了承を得て、近隣のファミリーレストランに外出に出かけることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は事業所で行なっているが、ご本人様の状況に応じて、ご家族様了承の下、少額の現金を持って、近くのコンビニやドラッグストア等買い物へ出掛ける事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りが出来る様、ご本人様が書けない場合はスタッフが代筆している。又、電話を掛けたいとの申し出があった際は、事業所の電話をご利用頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、館内のしつらえを変えたり、花を飾ったりして季節感を演出している。又、ディスプレイはご利用者様にも一緒に作成して頂き、思い出深いものとなるよう工夫している。	ホールには畳のコーナーもあり、テレビやイス、テーブル、ソファ、加湿器が配置されており、温度や湿度が適切に保たれている。音や光、広さにも配慮され、生活感や季節感を取り入れることで、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは憩いの場として、ソファの配置や畳の間を設けており、ご利用者様がお一人になれたり、ご利用者様同士で思い思いに過ごせる居心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人掛けのソファやテレビを置いたり、写真やご家族様からの手紙等を居室内に飾る等して、少しでも心安らげる空間になるよう工夫している。又、居室小窓には切り紙を貼る等して、プライバシーに配慮している。	ご入居時に居心地よく過ごせるよう、使い慣れた物や好みのものを持ち込んでいただいている。ソファやテレビ、写真やご家族からの手紙を居室内に飾るなどして、安らげる空間になるよう工夫している。職員は毎日部屋の清潔保持に努め、できる方には自分で行っていただき、その後確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を貼ったり、トイレの使用状況がわかる様なボードを用意する事で、出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームみんなの家・大宮三橋

目標達成計画

作成日: 令和 7年 1月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	自治会への関わりを深め、地域との交流によりホームについて理解をいただき、災害時等の協力を繋げる。	地域との交流を深める	・自治会の回覧板に消防訓練やイベントのお知らせを同封させていただき、地域の方にも参加していただけるよう呼びかける。 ・オレンジカフェ等、地域の方との交流の場を設ける。 ・近隣の保育園などとの交流を図る。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

